

令和7年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	42	学 校 名	静岡県立静岡中央高等学校 通信制の課程	校 長 名	田中 剛
------	----	-------	------------------------	-------	------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	生徒の生活に 変化した の対指 の在り の方 の検 討	・単位修得率 50% ・新入生（一般生）の1科目以上単位修得率 60% ・必修科目の修得率 50% ・生徒アンケート「レポートの添削指導は丁寧に行われている」90%以上 ・生徒アンケート「スクーリングは学習を進める上で役に立つ」90%以上 ・3キャンパス合同教科会議を年間3回程度実施 ・教育課程検討委員会を年間3回以上開催 ・新しい RST の運用について検討を継続	・単位修得率 44.6% ・新入生（一般生）の1科目以上単位修得率 58.5% ・必修科目の修得率 40.9% ・生徒アンケート「レポートの添削指導は丁寧に行われている」93.8%以上 ・生徒アンケート「スクーリングは学習を進める上で役に立つ」91.7%以上 ・3キャンパス合同教科会議を年間3回程度実施した。 ・教育課程検討委員会を年間3回開催した。 ・RST について「行きたい学校づくり」推進事業の取組の中でレポートや受験願のデジタル化に伴い検討した。	B	○生徒への丁寧な対応が実践され、校内での適切な学習環境は提供できている。 ○職員会議や日々の打合せ（掲示板）において3キャンパス間での情報共有ができています。 ●レポートのデジタル化に伴い締切日間に際して提出しテスト受験しようとする生徒がいる。提出のルールを定めると同時にテスト実施についてのルール変更が急務である。 ○●通信制の学びの中で「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指したRST について更なる研修や情報共有をする。
	生徒の学習環境の向上	・始業スクーリング及び特別活動での指示により、Classroom への参加数を増やす ・「スクーリング通信」のデジタル配信 ・ICT を活用した学習支援を拡充 ・ユニバーサルデザインの視点に基づく報告課題・補助プリント・掲示物等の改善を継続 ・学習支援日を計画的且つ効果的に実施 ・外部機関との連携による学習支援を試行	・Classroom への入室を積極的に呼びかけ、昨年度に比べ入室数は増加した。 ・「スクーリング通信」をClassroom で配信した。 ・スクーリングでの ICT 活用が進んだ。オンラインスクーリングを各教科で実施した。 ・学習支援日は各キャンパスにおいて内容を充実させた。 ・外部機関との連携による学習支援、進路指導を行った。	A	○定期的に学習支援日を設け、職員や学習支援員、ボランティアなどにより個別指導を行うことができた。 ○貸出簿を用いて貸出用chromebook を管理するとともに、校内での生徒への貸出が可能な状態を保つことができた。 ○新しい取組としてオンラインスクーリングを試行できた。 ●分掌間の連携を強化し、より効果的な支援方法を検討する。 ○●ICT を活用したレポート作成やスクーリング展開について研究を進める。
	生徒の学習力向上 の指導方法	・教員アンケート「生徒の実態に基づき、面接指導の改善に取り組んだ」100% ・教員アンケート「生徒の実態に基づき、添削課題の改善に取り組んだ」80% ・生徒アンケート「レポートやスクーリングの内容がよく理解できた」70%	・教員アンケート「生徒の実態に基づき、面接指導の改善に取り組んだ」100% ・教員アンケート「生徒の実態に基づき、添削課題の改善に取り組んだ」97.1% ・生徒アンケート「レポートやスクーリングの内容がよく理解できた」84.0%	A	○スクーリングでは生徒の実態に合わせ、困り感を把握しながら自学自習につながるような内容を心掛けた。 ○プリント資料や映像、スライド資料等、視覚的で具体的な教材を提供できた。 ○レポートには知識を問うだけでなく自分の考えや意見を述べ表現できるような設問（思判表）を取り入れた。 ○●教科横断型や反転学習等、新しいスクーリングの在り方を模索したい。

様式第3号

イ	生徒の充実に した支援を実施	- 必要な生徒の個別の指導計画を作成 - 中学校訪問(春)を実施し、新入学生徒の情報を収集 - ICTを活用した情報共有及び職員会議時の情報共有を拡充 「生徒保健カルテ」の活用を推進 - ケース会議(生徒支援委員会)を適切に開催 - SCやSSW等の専門スタッフの有効活用及び外部機関との連携の推進	- 自立活動を中心に個別の指導計画を作成した。 - 積極的に中学校との情報共有を行った。 - 職員会議や日々の打合せでの情報共有とデータ管理による情報の一元化により、キャンパス間で個々の生徒の状況を共有した。 - ケース会議を適切に開催した。 - SC、SSW、養護教諭を含めた情報交換会を定期的に実施した。 - 生徒の居場所づくりについて外部機関との連携が進んだ。	A	○家庭での様子や通院歴等生徒の背景になる情報について聞き取り、指導計画に反映させた。 ○中学校の担当者との情報交換することができ生徒支援に活かした。 ○外部機関と連携して生徒の居場所づくりに取り組めた。 ●非常勤講師との情報共有、連携が難しい。 ○●SC、SSWのオンライン予約システムを構築し、各キャンパスの予約状況確認やオンラインカウンセリング、SCやSSW同士の情報共有を可能にしたが、ルール議論が必要である。 ○●健康診断を各キャンパスで実施できた。次年度は検査項目が増えるため、円滑な運営を目指し計画していく。
	社会の で自 現す めの 充実	- 生徒個々の目標達成や単位修得のために指導・支援の方法を研究 - 教員が連携し、生徒の情報共有を充実 - 生徒アンケート「行事に積極的に参加した」40%以上 - 就職支援員やジョブサポートティーチャーの活用 - 外部機関との連携による就労支援・進学支援	- 生徒アンケート「行事に積極的に参加した」37.8% - 教員間の連携により生徒情報共有が充実した。 - 外部機関(東海道シグマ、サポステ、事業所等)と連携し就労支援、進学支援を行った。	B	○学校行事の運営について生徒会役員が中心となり多くの生徒が主体的に参画した。 ○県の事業を活用し、就労に関しての個別相談を充実させることができた。 ○生徒の実態や生徒指導提要の改訂に即した生徒指導内規について協議できた。 ●ジョブサポートティーチャーの活用を増やす。 ●入学年次からの進路指導、進路未決定者を外部機関へつなぐ体制づくり、手帳所持者やグレイゾーンの生徒への対応等、進路指導を充実させていく。
ウ	ICTを 活用 した 校務 効率化	- 生徒アンケート「Classroomを活用した」50% - 教員アンケート「学習支援(スクーリングやレポート)にClassroomを活用した」60%	- 生徒アンケート「Classroomを活用した」73.5% - 教員アンケート「学習支援(スクーリングやレポート)にClassroomを活用した」62.9%	B	○レポートのデジタル提出についてロイロノートや百問繚乱を用いた試行をすることができた。来年度は全職員、全科目でロイロを活用する。 ○キャンパス全体連絡ルームや進路課ルームにより必要な情報をスムーズに発信できた。 ○●ロイロの研修を非常勤講師を含め行う。 ●ロイロを協働学習のツールとして積極的に活用していく。
	成績処 理シ ステム の円 滑な 運用	運用に関するマニュアルの随時更新	随時見直しを行った。	A	○大きな問題はなく円滑な運用ができた。 ○●誤入力を0件にできるよう職員への注意喚起や入力の指示をより適切に実践する。
	ICTを 活用 した 校務 効率化	- 生徒登録率85%(新入生) - 教員アンケート「学習支援以外(生徒連絡・進路指導・調査等)にClassroomを	- 生徒登録率91.1%(新入生) - 教員アンケート「学習支援以外(生徒連絡・進路指導・調査等)にClassroomを活用した」	B	○Googleドライブによる情報共有が業務効率化につながった。 ○●テスト受験願のデジタル提出システムを構築し試行できた。来年度は

様式第3号

		活用した」80%	77.1%		提出ルールの再検討をし改善する。 ○入試業務における基本情報入力や科目登録指導においてアプリの活用を進めることができた。 ●GoogleClassroom入室を100%とし、積極的に活用する。
エ	広報活動の促進	・「中央高通信」を年間4回発行 ・ホームページの定期的な更新 ・学校案内等の更新とデジタル配信を試行 ・各キャンパスにおいて、外部機関等と連携した合同相談会に年間1回以上参加 ・各キャンパスにおいて、中学校訪問（秋）及び中学校への広報資料の配信を計画的に実施 ・各キャンパスにおいて、入学説明会を年間3回実施	・「中央高通信」を年間4回発行した。 ・ホームページは階層を整理して定期的に更新した。 ・外部機関等と連携した合同相談会へ、各キャンパス合わせて計22回参加した。 ・各キャンパスにおいて、中学校訪問（秋）を新卒生のいる学校中心に行った。（計97校） ・各キャンパスにおいて、入学説明会を予定どおり年間3回（計9回）実施した。	A	○「中通」では生徒の学校生活が分かるような記事となるよう心掛けた。また、GoogleClassroomで配信したことで、業務の効率化、スピード化につながった。 ○ホームページの目的を改めて定義し、システムの再設定や投稿記事の整理に取り組んだことで、情報を必要とする生徒・保護者が正しい情報を得られる環境を整えることができた。 ○外部の説明会に積極的に参加し本校の学習システムの周知に努めた。 ●サイネージでの情報提供の見直しをする。 ●SNS（インスタ等）での広報活動を検討する。
オ	教職員の向 教資上	・全教職員が計画的に研修を実施 ・全教職員による校内研修を3回以上実施 ・教職員が受けた研修を他の教職員に伝達する機会を5回以上設定 ・チーム研修の参加対象者を拡大 ・人権教育全体計画に基づいて年間指導計画を作成し人権意識の涵養を推進	・全体研修を3回実施した。（ICT2回、生徒支援1回） ・毎職員会議でコンプライアンス研修を実施した。 ・伝達講習及び県外視察報告を随時実施した。 ・各キャンパスでの独自研修を随時実施した。	A	○今年度の研修テーマである「ICT活用」を中心に、実情に合わせた研修を行うことができた。 ○他教科のオンラインスクーリングを見学したりロイロノートでの添削について意見交換したりと日常業務の様々な場面で研修の場となった。 ●研修内容をもっとスピーディに業務に活かすことができるとよかった。
	コンプライアンス 遵守	・交通事故・違反ゼロを達成 ・発送時の複数チェックにより誤送事故ゼロを達成	・交通違反等のコンプライアンス違反はなかった。	B	○誤送防止のための方策を考え全職員で実行することができた。 ●非常勤講師への周知とフォローを徹底する。
	業務の精 選化	・各分掌で業務の整理分担を実施 ・教員アンケート「ICT(ClassroomやChromebook等)を活用したことで業務改善が進んだ」50% ・ICT活用が「できる」「ややできる」と答える教員90%以上	・教員アンケート「ICT(ClassroomやChromebook等)を活用したことで業務改善が進んだ」74.3% ・ICT活用が「できる」「ややできる」と答える教員74.3%	B	○郵送やアンケート集計等の手間が省けた。 ○Meetを活用して適宜会議を設けることができた。 ○受験願が整理しやすくなった。 ●デジタル化しても紙を無くさないことで業務改善につながらないこともあった。
	生徒の安心安全 確保のための 防災意識の向上 と対策の充実	・他校、他課程や、地域との連携を推進 ・各教科、特別活動において防災教育を実施 ・出校記録管理の徹底	・地域防災訓練へ参加した。（地域連携） ・各キャンパスで特別活動に合において防災訓練を実施した。 ・出校記録をデジタル管理した。	B	○二次元コード読込による出校記録管理を行うことができた。 ○防災倉庫や備品、各人の役割を確認することで具体的なイメージを持てた。 ●定時制や三島長陵高校、新居高校との合同防災訓練を検討したい。